『理想の美術スクールに出会い夢が広がる』

1992年、土木業を営む父と豆腐や麺を作り市場で販売する母との間に五人兄弟の四番目に生まれました。

   父方の叔父が彫刻家でシェムリアップのお寺の建築装飾に携わっていた為に、小さな頃から叔父の仕事場に頻繁に出向いて仕事の様子を眺めているうちに、美術や彫刻に興味が湧いてきたのだそうです。

  高校生になると、シェムリアップのフランス系のアーティストが運営するアートスクールに通い、カンボジア人の美術教師から、主に写真模写やデッサンの指導を受けました。授業料は無料でしたが、画材は自分で揃えなければならず、経済的に余裕がなかったため、絵の具や筆は買うことができずに、主に鉛筆画を描いていました。

  半年が過ぎると写真模写に飽き始め、もっと自由な発想で他の画材を使って制作してみたいと思い始めた頃、高校の友達から日本人が始めた美術スクールがあると聞き、友達と共に訪ねました。

　小さな美術スクールでは、画材も揃っていて、何よりも自由にテーマを決めて、「自分が描きたいもの」を好きに制作しても良いという笠原の指導が自分の理想とぴったり合っていました。以来６年間、次々とイメージが湧き、水彩、油絵、アクリルと様々な画材にもチャレンジしています。

  学校に通う日も週１〜２回から３〜４日と美術制作に費やす時間が増えていきましたが、両親は美術制作に没頭する息子の姿を見て、将来の職業としてアーティストとしてやっていけるのかと心配していました。

『コンテストの優勝を機に、アーティストの道を決意』

両親の心配や反対を身に感じながらも、家の仕事と両立しながら、学校に通っていたある日、ドイツの政府組織が企画したアート・クラフトコンテストがあり、彼もいくつかの部門に参加しました。このコンテストで、見事に二つの部門で優勝、一つの部門で第２位に選ばれました。それを機に、彼はアーティストの道を決意し、両親からも認められるようになりました。

カンボジアには、美術を学びたくても、学べる環境がほとんどありません。自分が身につけた美術の技術と描くことの楽しさを子ども達に教えることができればと、美術の指導にも情熱を持っています。小さな美術スクールでは、笠原の美術授業助手として、ラタナキリ州やカンポット州への出張授業に同行して、美術教師としての指導技術も向上しました。笠原の教え方と同じように、生徒一人一人の個性を活かした、独創的な作品を描くように指導しています。

『カンボジアの子ども達にも美術の喜びを伝えたい』

3年程前からシェムリアップ郊外にあるオー村の小学校を支援する日本人からの依頼で、村の小学生（高学年）対象の美術授業にも行くようになりました。ここは小さな美術スクールのバンデットとソッペアと３人で毎週水曜日に指導しています。小学校のクリスマス会などのイベントにも参加して、こども達からは信頼も厚く、頼りになるお兄さんとして慕われています。他には、片道30分〜45分もかかる外国人が支援している村の養護施設などへも、子ども達の為に熱心に絵の指導を行っています。

将来の夢は、自分の個展を開くこと。アートを通して、もっと世界の人たちに、カンボジアを知ってもらう機会を持ちたいと願っています。また、多くのカンボジアの子ども達に美術の楽しさを知ってもらう機会を提供したいと思っています。

現在は両親の仕事の手伝いをしながら、アーティスト、また、美術教師としての道を歩んでいます。

受賞歴:

2011年ドイツgizデザインコンテスト 複数の部門にて優勝、2位入賞

2012年メキシコアートコンテスト入選

学歴:　パニャサストラ大学英語クラス受講中